

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 特別の教科 道徳

改善の重点

- ① 指導の意図（主題設定の理由）を明確にした中心発問を設定し、発問構成を考えること。
- ② 評価については、道徳科の目標にある学習活動に基づき、期待する生徒の発言や記述等から、具体的な姿を見取っていくこと。

1 設定理由

道徳科の目標には、求められる学習活動として、以下のような学習の要素が示されている。

- ・「**道徳的価値を理解する**」とは、道徳的価値を、単に知識として理解させることではない。道徳的価値のよさや大切さ、道徳的価値を実現することの難しさ、道徳的価値に関わる考え方は多様である等の3つがある。道徳的価値の大切さのみを深めようとすると、分かりきったことを発言させたり、教師の思いを押しつけたりする授業になる場合が多い。
- ・「**多面的・多角的に考える**」とは、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解することである。例えば、思いやりには、「手を差し伸べる思いやり」もあれば、「見守る思いやり」もある。
- ・「**人間としての生き方についての考えを深める**」とは、人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きるべきか等について、生徒自身が自己を深く見つめ、自らの生き方について考えている姿のことである。 等

道徳科の学習を充実させるには、明確な教師の指導の意図（主題設定の理由）が大切になる。まず、ねらいとする道徳的価値を学習指導要領解説で理解する（価値観）→ねらいとする道徳的価値に関わるこれまでの指導や生徒のよさや課題等を明らかにする（生徒観）→生徒の実態を踏まえ、教材のどの場面を中心に考え、話し合わせることを適切に吟味する（教材観）。このように主題設定の理由を明らかにした上で、まず中心発問を考え、次に中心発問を生かす前後の発問（基本発問）を考え、全体の流れを構想すると、有効な場合が多い。

道徳科の評価は各教科と違い、個人内評価となる。道徳性の育成につながるような生徒の学習状況を見取っていく。道徳科で目指す学習状況は、目標に示される学習活動を行っている生徒の姿となる。例えば、以下のような生徒の姿（発言や記述等）を見取っていく。

- ・道徳的価値の大切さだけでなく、難しさ、多様さという様々な側面について考えている姿。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面を、多面的・多角的に考えている姿。
- ・授業での道徳的価値について現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直す姿。等

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ・中心発問を設定する際には、中心発問に対する生徒の反応が、3～4つ程度予想できるものを設定すること。複数の反応が予想される発問は、多面的に考えたり、話し合ったりする活動が期待できる。
- ・評価を意識するあまり、書く活動が、50分間の中に4～5回程設定される授業がある。考える時間や話し合う時間の確保を考えると、1単位時間での書く活動は、1～2回が妥当な場合が多い。本当に書かせる必要があるか、吟味して設定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「『道徳科』評価と授業構想の在り方」（令和6年3月）大分県教育委員会ウェブサイト
※上記にて述べた内容の詳細については、下記のページを参照すること。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ・「道徳科の目標」→P24～25 | ・「道徳科の学習活動」→P26～29 |
| ・「教師の指導の意図」→P32 | ・「道徳科の発問」「授業の構想」→P35～37 |
| ・「道徳科の学習評価」→P4～12 | ・「道徳科の学習指導案」→P46～53 |

- ② 「『考え、議論する』道徳科授業へ」（令和4年2月）大分県教育庁チャンネル